

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 つくし会
施設名	あおぞら保育園
報告者（役職）	河原 学（園長）
住所・連絡先	滋賀県大津市大江一丁目 36-1
	☎ 077-511-9516
	E-mail aozoraho@iaa.itkeeper.ne.jp

○タイトル（保育計画）

ツリーハウスにのぼろう！ ～丈夫な身体づくりをめざして～

○主な助成備品

ツリーハウス

1. 実施した保育計画策定の目的

平成 24 年 4 月保育園開設時、園舎や設備備品に殆どの資金を支出したため、335 m²の園庭には築山と砂場及び移動式の鉄棒 3 個のみの整備しかできていませんでした。そこで、木々や花々を植樹した中に、子どもたちの冒険心を駆り立てる遊具を一体的に配置し、自然に近い園庭に改造する園庭構想計画を作成し、推進することにしました。

この園庭構想計画に基づき、園児が楽しく遊びを広げられ、身体づくりに結び付くことを狙いとした園庭づくりを 5 年計画で進めます。その第 1 期として、平成 25 年度ツリーハウスを設置整備しました。

2. 具体的な実施内容

ツリーハウスの設置整備

4・5 歳児用の滑り台を備え、網目のロープネットなどで登れるやぐらを下部に設け、5 歳児が縄梯子やこぶ付きロープで登れる木と一体となった「ツリーハウス」を園庭に整備し、以下の取組を行ないました。（写真参照）

- (1) 4・5 歳児用の滑り台を備え、網目のロープネットを使い手足でツリーハウスの 2 階に登る取組をしました。
- (2) 主に 5 歳児（年長組）が、身体づくりの集大成として、縄梯子やこぶ付きロープを使い足腰腕など身体全体でツリーハウスの 3 階に登る取組をしました。
- (3) 年間を通して身体づくりに取り組み、子ども同士で励ましあいながら全員がツリーハウスに登れるように、集団づくりに取り組みました。

3. その成果と評価

1. しっかりした足腰腕の身体づくりに役立つ遊具としてのツリーハウス

- (1) 4・5歳児が網目のロープネットを使って2階まで登ることで、身体を持ち上げるための丈夫な手足が鍛えられました。
- (2) 5歳児が縄梯子やこぶ付きロープを使って、2階から3階に登ることで、足腰腕など身体全体が鍛えられました。
- (3) 4・5歳児の子ども同士で励ましあいながら、全員がツリーハウスに登れるようになり、集団づくりが進みました。

2. 子どもや大人の精神的支柱としてのツリーハウスの存在

- (1) ツリーハウスに登れるようになることが、年長の誇りや自信につながり、チャレンジしている姿が在園児や保護者・職員に大きな感動となっています。
- (2) ツリーハウスに登れることが、年長組として在園児の憧れの存在になっています。
- (3) ツリーハウスが、保育園のシンボルとして、地域の方や保護者、職員に親しまれ、お互いの繋がりや交流を深める存在感となっています。

4. 今後の課題と展望

ツリーハウスを含む園庭構想計画（完成予想図）に沿って、平成29年度までに少しずつ園庭整備を計画実施していきます。

(1) 第2期 平成26年度実績

乳児用の園庭を早急に整備することを優先し、当初園庭構想計画（完成予想図）になかった乳児園庭コーナー（0・1歳児用）を追加整備しました。築山・乳児用滑り台・乳児用砂場を植栽で囲み、出入り口の扉を2カ所設置しました。

(2) 第3期 平成27年度整備計画

- ・水を汲み上げる手動ポンプや砂場玩具を収納できる棚を備えた「収納小屋」
- ・築山との間に一体となった「どろんこ砂場」

(3) 第4期 平成28年度整備計画

- ・築山に登り2～3歳児が遊べる「滑り台」
- ・安全のため使用しないときはベンチとして使い、園庭クッキングの時に蓋を取り、築山を背に安全柵を設けた煮炊き用の「かまど」

(4) 第5期 平成29年度整備計画

- ・4・5歳児がロープ橋を渡りツリーハウスの下部やぐらに繋がるウォールクライミングやはん登棒でも登れる「やぐら」
- ・築山や散歩道に、四季の変化のわかる実の成る木や落葉樹を多数植え、小森の自然の中に上記の遊具等を一体的に配置。

以上、園庭整備を完成する予定です。

<写真> ツリーハウス



あおぞら保育園のシンボル。
ツリーハウスの前で、とんぴ
ぐみ（5歳児）の記念写真。

乳児用園庭
 <完成予想図>

